

みんなの健康ラジオ

『心因性視覚障害』

(2020年11月5日放送)

横浜市眼科医会

(医)倫純会かんない駅前眼科クリニック

福永 ひろ美

心因性視覚障害の捉え方

子どもは親の保護下にある



学校・お稽古・塾など社会生活による
新しいストレス



社会行動に対する周囲・および自己の要求
(良い子)



本人に自覚がないストレスの形成
ストレスを解消することができず、発症

治療はどうしたら

- 原因となるストレス（学校や家庭でのストレス）がないか考えてみる
- ストレスは可能であれば徐々に取り除く
- 周囲の関係者すべての配慮（見守りが大切）
- 高学年の子どもにおいては周囲の者に心を開かず、なかなか改善しないこともあります

- 保護者も気付いていないことが多い
- 保護者の理解が必要
 - 保護者によるストレスの緩和

まとめ① 家庭

- 保護者が必要以上に心配し、神経質にならないように
 - * 「なぜ見えないの」というような不用意な言葉
 - * 心因性の障害「心の問題だ」などと告げること
 - * むやみに励ますなどで、症状が長期化することもあります
- 思いやりを形に
 - 無関心を装うと症状が悪化することもあります
 - 成長するに伴い心因のストレスが薄らぐ
 - 自然治癒が多い
 - 温かく見守っていく環境が望ましい

まとめ② 学校

1)学級担任の理解・受容も大切

「家庭－眼科医－学校」 の連携が必要

養護教諭が窓口になって医師と連絡

学校の対応と家庭との連携のあり方を検証

一人一人の子どもに適した対応

2) 教職員間の連携を大切に

学校内は校長を中心に教頭・養護教諭・学級担任・保健主事・スクールカウンセラー等、関係者の役割を明らかにし、席の配慮・担当職員を決めておく・交友関係の調整など